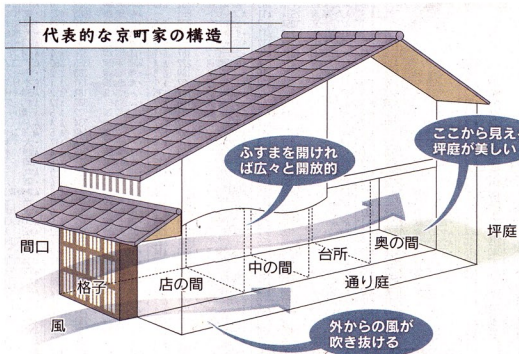


京町家、外国人が住んでいる



京町家に滞在するロンドン人一家



京都の街を歩くと、間口が狭く奥行きの長い木造建築の京町家が多く残っていることに驚く。近年、独特の構造をした町家を改装した宿泊施設や住宅が外国人から引張りだしている。何が受けられているのか。

まずは町家を活用した宿泊施設を運営する庵(京都市)は「日本の伝統を直接体験できるのがイネ」目を輝かせる。妻のチサさん(50)も

風 四季 歴史「イネ」

蒸し暑さ乗り切る

「風が自然に通るから心地よい。ホールのより広くて家族で使いやすい」といふ。フラスからスティーブさんは町家体験が今回のヒートデーで、米国の友人にも勧められた。続いて、町家を住むほど、貸し出している不動産会社の「ランドエス・ジェン」(京都市)に向かう。町家再生には約3000件だが10件ほどは外国人からの依頼。現在も年間5、6件の引き合いがあると、町家再生の担当者小西は「外国人の方も増えています」と明言する。同社が賃貸する10軒中7軒は外国人が住居する。

京都大学のフランス人研究員ニコラス・ジョアンソン(38)は学生生活2年半、半年、京都に来た当初は「最も日本的なものを感じられる」と昨年秋に越してきた。木造ならではの自然のぬくみがお気に入り。少し薄暗く、たまにネミも出るけれど」といふ。フラスから京都観光に訪れる友人の評價も上々だ。

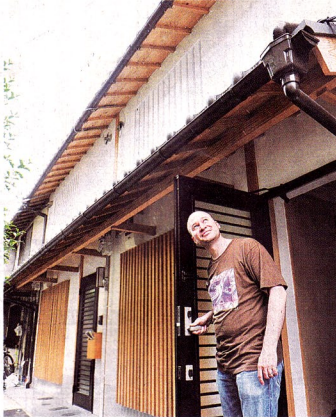
京町家の保存活動を取り組む町家再生研究会の小島寛佐理事長によれば、古い町家に入った外国人が誇り愛し、所有する例もある。研究が過去10年間で行われてきた町家再生は約3000件だが10件ほどは外国人からの依頼。現在も年間5、6件の引き合いがあると、町家再生の担当者小西は「外国人の方も増えています」と明言する。同社が賃貸する10軒中7軒は外国人が住居する。

「特に欧州では古い建築物が大切に保全されている。町家の理解も外国人の方が高いのでは」と話す。

町家人の背景には伝統や歴史への敬意があるようだ。洋式住居では熱を極力外に逃がさぬように厚い壁で部屋を区切り、家体も快適な住み心地が外国人を引きつける魅力なのかもしれない。

京都市の景観・まちづくりセンターによら、市内には約4万7千戸の町家があるとされる。小西一郎事業塾長は「多くは明治から昭和初期までに建てられていますが」と教えてくれた。

木造、自然と一体感



京町家を改装した賃貸物件「暮らす」ニコラス・ジョアンソン

町家の構造自体であった。

蒸暑い京都の夏を乗り切るため「風通しを良くしたい」と考えた。また「高い一高田敷形、建築費も玄関の奥の間まで奥、長い通廊(一冊)や、奥に設けられた風通しを良くする。夫が随所に設けられたすまじ開け放しは外部(内部)の環境は消え、四季の寒さを体で感じ取れる。高田さん「夏を乗り切る手段の庭が、住居と自然の一体感を生み出す」と指摘する。

洋式住居では熱を極力外に逃がさぬように厚い壁で部屋を区切り、家体も快適な住み心地が外国人を引きつける魅力なのかもしれない。

京都市の景観・まちづくりセンターによら、市内には約4万7千戸の町家があるとされる。小西一郎事業塾長は「多くは明治から昭和初期までに建てられていますが」と教えてくれた。

探

あなたの疑問解決します

当コーナーで調べてほしい、身の回りの疑問を募集します。調べてほしい内容に、お名前、ご連絡先を添えて電子メールmadoki@nikkei.co.jpまでお寄せください。

い。京都市支社 古川(廣)